NJ素流協News
令和４年７月10日
第210号

令和４年７月10日発行・発行所　ノースジャパン素材流通協同組合　〒020-0024 盛岡市菜園１丁目3-6（農林会館５階）
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / http://www.soryukyo.or.jp/index.html

ノースジャパン素材流通協同組合 令和４年度地区別組合員会議開催

ＮＪ素流協は令和４年度地区別組合員会議を開催した（各会場の出席者数は表１のとおり）。14日の十和田会場の開会にあたり、鈴木理事長が次のとおり挨拶した。

日　時	場　所	出席組合員数	出席者数
6月14日	十和田市	14	18
6月15日	大崎市	9	10
6月16日	八幡平市	13	16
6月23日	住田町	17	22
6月24日	久慈市	10	11
6月30日	大館市	11	12
計		74	89

※複数会場出席の組合員があるため延べ数

表１　各会場の組合員等出席者数

「当組合の総会が無事終わった。組合員の皆様からのご協力もあり、今年度の取扱量は52万㎥と、一年度ぶりに、50万㎥を超えることができ、感謝申し上げる。

さて、昨年の秋以降、ウッドショックが東北に波及し、発注量に対して、納入量は増えたものの、まだまだ工場に納まらないという状況が続いた。その中で、ロシアのウクライナ侵攻もあり、ますます不透明な状況になっている。

また、昨年度は、コロナの影響もあり、林業講演会はＷＥＢと併用、先進地視察は中止し、研修会は外で人数を絞って半日だけ行った。そのため、必ずしも皆様のご期待に添うことが出来なかったのが反省点だ。

理事長挨拶（八幡平会場）

今年度はなんとかご期待に応えられるように業務を行ってまいりますので、皆様からの一層のご協力をお願い申し上げる。」

続いて、議事に移った。主な内容は次のとおり。

1．話題提供

「ウッドショックにプーチンショックが加わった　今年度の林業・木材産業の現状と見通し」

▼ウッドショックが川下に与えた影響

ウッドショックによる外材不足と価格の高騰は、住宅メーカーや工務店といった川下に大きな影響を与えた。そこで、「外材比率が高い部材を外材に頼りすぎては危険」だということが教訓としていえる。

対策として、一定量については国産材の保険をかけることがポイントだと考える。その中でも、最も影響を受け、保険をかけなければならないと思われるものを「保険品目」として整理した。

①ＲＷ・米マツ主体の梁材→カラマツ、スギ集成材

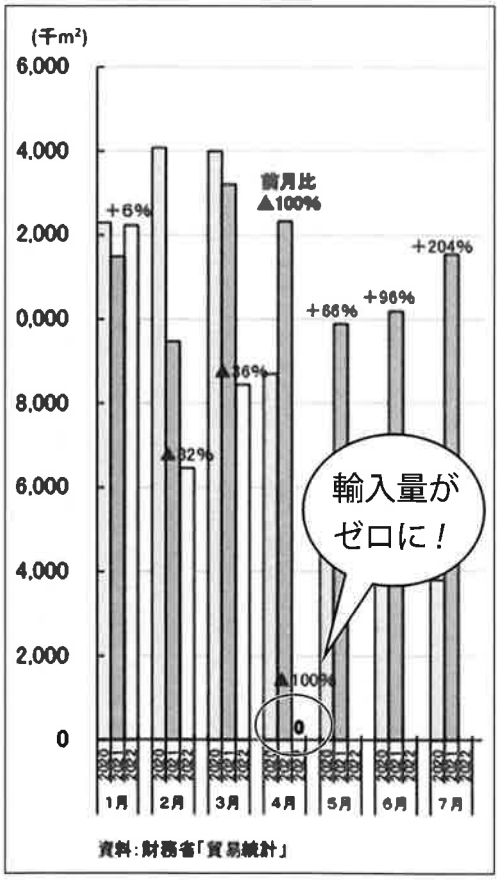
②２×４向けディメンションランバー→スギのディメンションランバー（２・５ｍ）
③ＷＷの管柱用ラミナ→スギのラミナ調達
④複合床板基材の合板、薄物合板等南洋材合板→トドマツ、シラカバの他、節の少ないスギ元玉
⑤垂木等ロシア材小割製品→スギ、アカマツのＫＤ材
⑥合法性証明がとれない南洋材堅木→トラック、バス等ボディー材の代替（圧密木材、防腐木材）
⑦資源的に今後の供給が見込めない高級造作材シトカスプルース→スギ80年生以上に回帰
⑧需給バランスが崩れているオーク等広葉樹→国産広葉樹用材調達強化

昨年度の輸入平均単価は、全体的に製品価格が高止まりしている。これは、日本国内での価格は、現地での調達価格＋船運賃であり、この船運賃の高止まりが続いているためである。また、円安も影響し、製品価格に連動するように、東北のスギの丸太の価格も上がってきているのがポイントである。

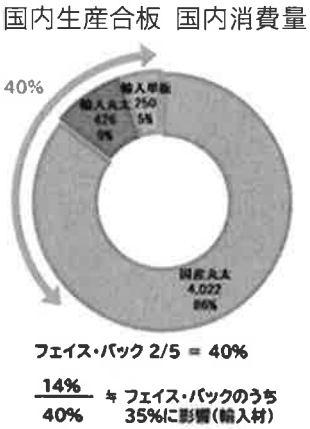
▼プーチンショックの影響

林野庁によると、ロシアからの４月の輸入量は、製材輸入量は前月比37％減、単板輸入量に関してはゼロとなった。

この影響をどう見るか？国内の合板用材消費量のうち、ロシア産単板は２・３％しかないため影響は小さいように見える。しかし、国内で生産する合板の丸太比率のうち、輸入丸太と輸入単板が14％を占めている。これは、フェイス・バックに使う５分の２（40％）に占める外国産の割合が14％ということなので、フェイス・バックのうち35％に影響があるのは大きい。



「ロシアからの単板輸入量」林野庁ＨＰより



以下、プーチンショックによる影響を列挙する。

①ロシア単板輸入禁止

ロシアの輸入単板が入ってこないとなると、合板のフェイス・バックの代替をどうするか？ということになる。候補として米マツが挙げられるが、高値（３万６千円）で、入荷も安定していない。すると、国産カラマツ丸太へ需要が拡大し、現在の高値はりつきが起きている。しかし、カラマツ資源には以下の問題点がある。

●北海道→今でも伐りすぎ、国有林トドマツ造林地が多い、強度不足
●長野方面→資源はあるが素材生産業が未熟、ヒノキ中心の風土、周辺に林ベニヤ、森の合板、キーテック等の合板工場立地
●東北→立木手当遅れ、高標高地多く冬伐り困難地多数、スギ・アカマツ・広葉樹の需要と多様化

さらに、輸入単板から国産丸太に変えると、皮剥きと単板製造工程が付加され、追加機械の導入が間に合わないという問題もある。需要に対して、生産が増やせないというのが現状だ。

②欧州へのロシア材輸入が減退

欧州は、ロシア丸太・製品を自国産にプラスして日本へ輸出しているが、それがロシアから入ってこなくなると輸出余力が減退する。加えて、ロシアから欧州への輸送経路は、海

路２か所に限られている。よって、欧州材の比率が高い製品は影響が大きく、業界としては、発注の高止まりが続くと思われる。

③世界的原油高騰と円安

原油のロシア比率が高いために、船運賃フレートは特に上昇している。さらに、円安で輸入単価がアップしている。そのため、結果として、国産材を利用した方がお得だということになる。

組合員会議の様子（十和田会場）

▼住宅需要減退について

とはいえ、日本は景気が悪化して住宅需要が減るから、木材需要も減るのでないかということをよく言われる。以下の指摘に答えながら検討していく。

Q　新設住宅着工戸数は何故下がらないのか？

A　世代間同居が減り、世帯数が増加している。さらに、移住や単身世帯、外国人居住者等人の移動の増加もある。

Q　不景気だと着工戸数は下がるのでは？

A　景気が悪化すると必ずローン減税が講じられる。また、家を建てる計画は、子育てと絡んでいるため適期をずらせない。

Q　木材の高騰で木造比率は下がるのでは？

A　鉄をはじめＳ造、ＲＣ造も値上がりしている。また、木造住宅に占める木材費用は10～15％なので、木造はそれほど不利にならないと考える。

Q　ウッドチェンジの進捗は？

A　公共建築物等から民間施設に木材を利用する法律改正が行われ、大企業も脱炭素社会に向けて動き出しているため、非住宅分野の木材需要が見込まれる。

Q　東北の丸太の強みは？

A　樹種が多様で量も集まるので、供給体制が遅れている地方へ出荷可能。気温が低いため、強度が強いことも利点。

以上から、必ずしも木材需要は減らないと考える。

▼東北の丸太需給バランス

とはいえ、今、大手工場の土場は余裕がないのでは？ここで、東北の特徴を見ていきたい。

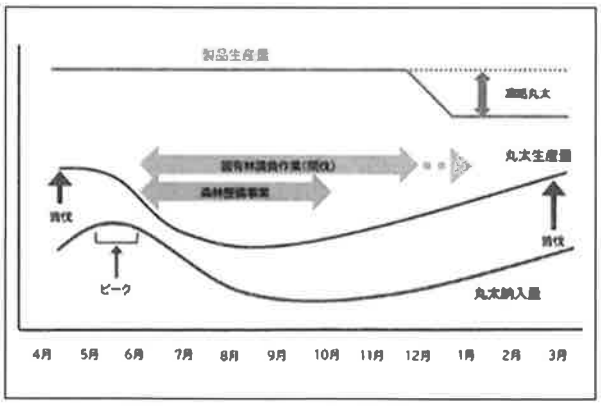


表２　東北の丸太需給バランス

11月～12月になると、丸太が凍結して製品生産量は15％ほど落ち、消費量が減る。この頃から、夏に国有林請負作業や森林整備に入っていた人たちが皆伐に入るので、供給量が増え、５月～６月をピークに在庫が貯まる。その後は、再び国有林請負や森林整備事業に入るため、供給量が減る。

そういう意味では、今の在庫が満杯だとしても、工場はフル稼働なので、需要をキチッと確保していくことが重要である。

▼今年の素材生産の注意点

・木材製品価格、丸太価格ともにウッドショック前の水準には下がらない。

・カラマツ単価、需要は今年度いっぱい高値水準。

・広葉樹用材の輸入は厳しく、国産丸太への切り替え要望が高まる（直材20cm以上に、片面不良材、大径穴あき材も可、１・８０ｍ以上は当然可）。

・炭素固定効果や近年の豪雨災害多発から、スギ・カラマツ小径木の需要は堅調。３ｍニーズが高い。（杭材としての８～13cmについては、多節

でも節をキッチリ落とせば大丈夫)。
・ラミナ需要、母屋角需要により、14～16cmは需要が減らない(パルプ、チップよりかなり高い)。
・スギ大径木も２・５ｍ採材なら上限なし（道交法５月改正により横積み可能に)。
・80年生以上のスギ、アカマツは希少。辺材部の色や目詰まりが鍵。是非ご相談を。また、めったに出ないヒノキ、トドマツ、ドイツトウヒ、サワラ等もご相談を。
・インドネシアがパーム油輸出禁止。ＰＫＳ代替の広葉樹パルプ、カラマツ・アカマツバイオマス材需要拡大。
・林道脇残材の活用が始まる。数量まとまった32円残材は是非販売を！
・脱コロナで薪材需要復活。秋伐り以降準備が必要。
・トビ（ガニ）は、黒じみだけならＢ材製材が可能になるのではないか。
・北東北の特徴として、必ず８月以降12月まで丸太不足。多班セット持ち事業者は少なくとも１班は手山伐採を。
・納入先が遠く、自社トラック運搬が困難な場合は、営業トラックを紹介するのでご相談を。
・製材兼業の組合員さんは、どうしても必要な丸太はご相談を。
・アカマツ、白物広葉樹の夏場の伐採は抑制し、伐らざるをえない場合は、伐採後２週間以内に納入。
・プーチンショックはヨーロッパブナにも影響。ブナ材は貴重。
・同じチップ用材でも、バイオ皮付き、製紙用は皮剥を考えて曲がりを判断。

今年度の動向は、昨年度よりも不透明になっている。組合員の皆様には、情報流として今後も様々な情報をお伝えしていく所存だ。

組合員会議の様子（八幡平会場）

２．令和４年度事業計画

組合のスローガン「Ａ～Ｄ材までのすべてを活用する」「組合員ファーストを理念とする」「ギブ・アンド・ギブに徹する」を継続するとともに、「売り手良し、買い手良し、地域良し」の三方良しに加えて「丸太良し」の四方良しを目指す。あわせて、次の10の課題を具体的テーマとして捉え、情報流組織として事業展開を進める。

①合板・ＬＶＬの国産材化の更なる進展に努める。
②ヒノキ以外の土台材の国産材化の進展に努める。
③外材が主流を占める集成材の国産材利用の進展に努める。
④鉄骨造・ＲＣ造に代わる国産材木造建築物の普及に努める。
⑤広葉樹の用材・原料材の適切な分別を指導するとともに、国産広葉樹材利用の進展に努める。
⑥短コロから小径木まで、薪材・新用途チップ・木質バイオマス用材等の利用を促進し、全木・全幹の利用により山元価格の上昇を図る。
⑦意欲と能力のある林業経営者の認定に協力し、林業事業体の体質強化を促進する。
⑧青年部会の活動を充実させ、後継者の育成に努める。
⑨盛岡宣言の実現を図るとともに、再造林を進めるための各種取り組みを加速させる。
⑩川上・川中・川下を結ぶ情報流の更なる充実

組合員会議の様子（住田会場）

３．令和４年度主要事業

ア．共同販売事業

令和４年度の合板用、製材、集成材用素材およびバイオマス発電用素

材等の総取扱量は、昨年度の計画に３万㎥上乗せの55万㎥を計画している（バイオマス１トン＝１㎥とする）。

イ．森林再生に係る事業

岩手県森林再生基金事業の令和３年度協力金総額は３１９５万円で、岩手県に関係する当組合員のうち96名が協力を行った。これにより、前期繰越金約２６１６万円を合わせ同基金の規模は５７７６万円となっている。再造林助成金の交付額は４１００万円で、前年比１３９・４％の実績となった。

当組合は、青森県の「青い森づくり推進基金」に対しても再造林協力金の拠出を行っている。また当組合独自の再造林促進奨励事業については、全体で10㎥を計画している。

ウ．技術指導と調査研究、情報提供に関する事業

・いわて林業アカデミー就業体験

研修生を採用する考えがあり、就業体験研修の受入れに協力いただける事業体を随時募集する。

・林業用種子（カラマツ）の確保協力

カラマツ種子の不足に対応するため、カラマツ球果採取と種子の提供に引き続き取り組む。

・原木トラック運送効率化

東北地区原木トラック運送協議会と連携し、原木運送業の改善を図るため、要望陳情活動を継続的に行う。また、原木運送事業の事故防止、労働安全や環境保全対策に必要な事業、協議会会員の拡大を図る取組みを実施する。原木運送の果たしている役割、重要性について様々な機会を通じて発信する。

・伐採・搬出・再造林作業ガイドライン

令和３年度は、ガイドラインに関するＣＲＬ認証（責任ある素材生産事業体認証）に向けて、伐採と再造林の連携の重要性について発表した。また、６月27日に東京で全国連絡会議創立総会が開催され、当組合としても参加。

・意欲と能力のある林業事業体の認定状況

東北各県で公募と認定が進んでいる。国の補助は認定事業体に集中する傾向となっており、組合員の認定申請をサポートしていく。

・鳥獣害拡大防止のためのシカ等の出没情報の収集に関する取組

株式会社マップクエスト、愛知県森林・林業技術センター、国立研究開発法人森林総合研究所の３者で開発した「シカ情報マップ」を用いて、目撃情報・被害情報をインターネット収集し、地図上に更新する。組合員とともに情報収集に協力していく。

・研修会等の実施

新型コロナウィルスの状況に配慮しながら実施する。８月８日（月）に第１回林業経営講座「これからはじめるオンライン会議」、「消費税インボイス制度について」を開催予定。

・自己研鑽研修助成事業

組合員の役職員等が自らの技術・知識の向上を目的として研修会に参加した場合や、外部講師を招聘して社内研修を実施した場合、また、資格取得研修等の費用の一部を助成する。今年度から、販売・運搬実績の有無で助成割合が変わる（下図参照）。

・合法木材及びバイオマス材の適正供給

当組合で合法木材およびバイオマス材等の証明に係る事業者として認定している方には、令和３年度の取扱実績報告をお願いする。

なお、伐採届出制度の運用が見直しとなったのでご確認いただきたい。

・労働安全衛生について

厚生労働省の発表によると、令和３年度の岩手県の死亡者は５名と、全国ワースト１位となった。そのため、岩手県内組合員の皆様には、各事業体で安全集会の実施状況報告書の提出を求める。また、岩手県外組合員の皆様は、実施状況の報告は不要だが、各事業体における災害防止

【助成金額】

前年度の販売又は運搬実績がある場合	実績がない場合
費用の３分の２（上限５万円）	**費用の２分の１（上限５万円）**

・年度内１組合員につき１回１名分。先着順とし、予算に達し次第締め切り。
・申請受付期限…２月末、交付…３月末

表３　自己研鑽研修助成金額

対策に努めていただきたい。

・軽油引取税の免税措置

軽油引取税免除額は32・1円／ℓで、現行措置は令和6年3月末まで継続される。3年ごとの措置延長の際、林業・木材加工業での活用量が少ないことが指摘されているので、積極的に活用していただきたい。

・青年部会について

現在会員数は正会員25名、賛助会員9名で、新規会員を継続募集している。会員の知識・技術向上を図る研修や交流事業等のほか、今年は7月9日（土）に岩手県八幡平市で林業普及啓発イベント「第2回げんき森林（モリ）モリフェスティバル」を開催する。

4．今後取り組む事項

これまでに要望があり、取り組むこととした事項は、次のとおり。

①新規起業者を巡回して経理指導アドバイス

新規起業者は素材生産業の経費区分や税制上の仕組みを理解する場がなく、近くに詳しい者がいないと相談できないことから、組合員サービスの一環として、要望があれば会社を訪問して指導する。

②組合員の安全大会における講義

災害発生の現状や事故例を紹介するなど、必要な場合には伺って説明する。

③素材生産に携わる従業員の製品工場視察

生産している素材が、どのような製品になるのか、製材所、加工工場を実際に見ることで、生産する上での注意点や素材の取り扱い方法が見える。また、素材に対する思い入れの変化も期待できる。

ご要望があれば経営企画課へ

トピックス

中国木材 能代工場起工式

中国木材は6月8日（水）、秋田県能代市で起工式を行い、秋田県 佐竹知事や能代市 齊藤市長をはじめ、秋田県内外の木材・林業関係者等約60名が参列し、工事の安全を祈願しました。当組合からは、鈴木理事長と小野寺営業企画部部長が出席しました。

能代工場は、能代工業団地に約31万平方メートルの敷地を確保し、造成工事を開始しております。

２０２４年1月の試運転を目指し、原木消費量は年間24万㎥を計画しています。

堀川会長による鍬入れの儀

令和４年度第１回東北地区需給情報連絡協議会を開催

6月2日（木）、東北地区需給情報連絡協議会がＷＥＢで開催され、当組合鈴木理事長のほか、東北各地区の構成員が出席し、熱心な意見交換が行われました。詳しい内容については改めてお伝えいたします。

ＮＪ素流協青年部会 第４回通常総会を開催

ＮＪ素流協青年部会は、6月11日、第4回通常総会を盛岡市内の会場とオンラインの複合型で開催し、会員19名が出席した。

議案第1号「令和3年度事業報告書及び決算関係書類承認の件」では、岩手の森林づくり県民税を活用し、当青年部会で初めて主催した児童・生徒向け林業普及啓発イベント「げんき森林（モリ）モリフェスティバル」などについて報告された。

議案第2号「令和4年度事業計画書及び収支決算決定の件(案)」では、研修事業、新規会員の募集、森林・林業の普及啓発及び社会貢献活動、他団体青年組織等との情報交換・交流活動に引き続き取り組み、具体的には、第2回イベントの開催（イベントの様子は次号で紹介します）、第51回全国林業後継者大会に向けた準備活動等に積極的に取り組むこととした。

議案第３号「役員改選の件」では、任期の満了により新しく役員を選任した。新役員11名は表のとおり。

表　ＮＪ素流協青年部会 新役員名簿（組合員番号順、敬称略）

No.	役職名	氏　名	所　属
1	会　長	横　澤　孝　志	横澤林業株式会社
2	副会長	松　田　　格	有限会社松田林業
3	副会長	白　鳥　　公	有限会社白鳥運送
4	幹　事	荒　川　吉　広	荒川商事有限会社
5	幹　事	山　田　龍太郎	有限会社山一木材
6	幹　事	廣　瀬　　誠	株式会社広瀬林業
7	幹　事	菊　池　宗　徳	株式会社フォレスト創森
8	幹　事	砂子澤　　元	有限会社砂子澤林業
9	幹　事	漆　坂　政　輝	有限会社漆坂林業
10	監　事	野　邑　真　路	有限会社道又林業
11	監　事	波　紫　慎太郎	十和田燐寸軸木株式会社

お知らせ

国産材転換支援緊急対策事業の経費支援政策について

4月28日の閣議で、原油価格・物価高騰等総合緊急対策に関する予備費の使用が決定されました。

林野庁では、このうち国産材転換支援緊急対策事業として以下の支援をすることとしています。

【運搬支援】

●助成対象

①原木・製品のトラック運搬経費

※原木トラックは１００km、製品トラックは３００kmを超える取組みであること。

②原木・製品の内航船運搬経費

いずれも、運搬を第三者に委託等している必要があります。

●助成対象者

①原木トラック…林業経営体等、木材加工業者等、林業経営体から原木の委託を受けた者

②製品トラック…木材加工業者等、製品流通事業体等

③内航船…林業経営体等、木材加工業者等、原木・製品流通事業体等

●期間…助成登録依頼書・運搬実施計画を令和４年７月20日までに必着（お早めに!!）

●書類提出先…（一社）全国木材組合連合会

【一時保管支援】

●助成対象

①原木・製品の一時保管場所確保

②原木一時保管場所仮設整備

③原木品質劣化対策等

④原木の保管場所からの運搬等

⑤製品の保管場所への運搬等

●助成対象者

林業経営体等、木材加工業者等、原木流通事業体等

●期間…助成申請書・一時保管実施計画を令和４年９月20日までに必着（予算の都合で期日前に締め切る場合あり）

●書類提出先…公募要領に記載の地域木材団体

その他の条件や、応募要領及び提出書類等は、専用のホームページから見ることが出来ます。左記のＵＲＬよりご覧ください。

国産材転換支援緊急対策事業ホームページ
https://moku-tenkan.jp/

森林・林業・木材産業グリーン成長総合対策事業について

この事業は高性能林業機械、木材加工流通施設等の整備に係る補助を行うもので、県から市町村に補助金を交付し、交付を受けた市町村が、事業を実施した林業事業体等に再交付する方式で実施されることから、実施要望がある場合は、市町村に実施要望を提出する必要があります。

回答報告期限が県によって異なりますので、市町村の担当部署、又は県庁担当者にお問い合わせ下さい。

第５回伐採搬出・再造林ガイドラインサミットin東京

6月27日、ホテルメトロポリタンエドモント（東京都）において、伐採搬出・再造林ガイドライン全国連絡会議の創立総会並びに第５回ガイドラインサミットが開催され、創立総会において、ＮＰＯ法人　ひむか維森の会　代表理事　松岡明彦氏が

全国連絡会議の代表に選任されました。

来賓は次のとおり、

天羽隆　林野庁長官、小坂善太郎　森林整備部長、石田良行　整備課長他、島田泰助　（一社）日本林業協会会長、中崎和久　全国森林組合連合会会長、菅野康則（一社）全国木材組合連合会会長（代理出席　本郷浩二　副会長）、日高勝三郎　全国素材生産協同組合連合会会長

第５回ガイドラインサミットにおいては、基調講演として、酒井秀夫東京大学名誉教授「成熟してきた日本の森林資源とこれからの展望と課題」、特別講演として、島田泰助日本林業協会会長「循環型林業確立への鍵を握る素材生産業」があり、講演終了後に、枚田邦宏鹿児島大学農学部教授をコーディネーターとして、これからの活動内容についてパネルディスカッション形式による意見交換があり、再造林の重要性を改めて認識する機会となりました。

パネラーは次のとおり

前島和弘　島根農林水産技監、藤掛一郎　宮崎大学農学部教授、黒田仁志　ヤマサンツリーファーム代表、鈴木信哉　ノースジャパン素材流通協同組合理事長

※伐採搬出・再造林ガイドラインの活動は、２００８年にひむか維森の会が、素材生産現場における環境配慮を進めること、素材生産のあるべき姿を業界全体で進めていくことを目的に定めた「伐採搬出ガイドライン」が基礎となっています。

伐採搬出・再造林ガイドライン全国連絡会議の会員募集について

この会議は、業界団体のみならず、ご関心のある企業、個人など幅広い観点から情報交換を行なって、活動を全国に広げて各地での取り組みを支えることを目的としています。趣旨に賛同し、参加いただける方は、会員の申し込みをお願いいたします。

●事務局

全国チップ工業連合会

担当　専務理事　大迫敏裕　氏

東京都文京区後楽１－７－12

電話　０３－５８０６－２４１５

ＦＡＸ０３－５８０３－２４１６

●問い合わせ先

ＮＰＯひむか維森の会

電話　０９０－２５１１－０８３２

鹿児島県素材生産事業連絡協議会

電話　０９０－９５８９－８０７６

※組合員の方は、経営企画管理部までお願いします。

第１回林業経営講座を開催予定！

組合員及び組合員下の従業員を対象に、今年度の第１回林業経営講座『どうする？Ｚｏｏｍ、どうなる？インボイス』をテーマに、次の通り開催いたします。

１．開催日時

令和４年８月８日（月）

13時00分～17時00分

２．内容

①これからはじめるオンライン会議『Ｚｏｏｍ』　※パソコン貸与は15名まで可能です。可能な方はパソコン、タブレット又はスマホ等をご持参ください。

②消費税インボイス制度について税理士による解説

３．会　場

マリオス（盛岡駅西）

４．応募締切

７月22日（金）

詳しくは、経営企画管理部までお問い合わせください。皆様のご参加をお待ちしています。

丸太の品質劣化にご注意ください！

気温と湿度が上昇し、丸太の品質に悪影響を及ぼす時期になりました。虫害、青変菌（特にアカマツ）、広葉樹の品質劣化が起こり、丸太の価値が下がってしまいます。

伐採後は概ね２週間以内に工場へ納入するようにしてください。

ちょっと気になる木の話 72

拡大造林は何故成功したのか？
―再造林が叫ばれる中で考える―

戦後の拡大造林した木が成長し、利用期を迎えて、国産材時代の到来と言われているが、その伐採後の再造林問題が注目を浴びている。再造林問題を考える上で、そもそも拡大造林は何故成功したのだろうか？考えてみたい。

国土を守り、水源かん養もあり、戦後造林が推奨された。拡大造林は、古くからの林業地帯で、人工林を戦前から作ってきた森林ではなく、新たに人工造林として、植えたものである。

１つ目は、その最大のキーワードは薪炭林であった森林である。戦前の木材利用量も薪炭用が過半を占めていたのである。戦後、エネルギー革命が起きて、石油、石炭、ガスへとエネルギーが移り、薪炭林は、かつての必要性が消えていったのである。この時、三白景気といわれ、製紙産業が急成長することとなり、漂白技術の進歩から白系針葉樹からアカマツ、広葉樹へと利用が拡大することとなった。結果、拡大造林地の前生林から、お金を得られることとなり、造林経費がまかない易くなったのである。

２つ目は、戦後は外貨がなく、木材は海外から輸入することができない中、戦後復興需要に加え、高度経済成長に伴う木材需要の高まりは、木材価格を押し上げ、林業は脚光を浴びることとなる。その時、膨大な利益を得たのは、山持ち（大山林所有者）である。吉田茂首相を支えたのは、吉野ダラーと言われたのがこの頃で、こうした状況を見ていた人々は、山持ちにあこがれて、拡大造林に邁進するキッカケになったとも言える。

３つ目は、農地解放により、田んぼが自分のものとなったことから、農山村に若い後継者が多数残ることとなった。次男、三男は都市への移動現象も起きたが、長男は農山村に残り、労働力として拡大造林に従事できたのである。農業の機械化の進展も林業労働力への従事を可能にしたといえる。まとめれば、拡大造林を成功に導いたのは、金と意欲と労働力が確保された結果ともいえる。

しかし、拡大造林が進む中でも、造林がなかなか進まない地方や場所もあった。このエリア対策として登場したのが、分収造林制度の活用である。官行造林、公団造林、県行造林、林業公社造林である。金と意欲と労働力の薄いエリアの拡大造林促進策であった。

結果、大量の拡大造林地の確保となるが、その後の材価低迷により、伐期延長が行われ、そのまま林齢を重ねているケースも非常に多い。とりわけ、借入金を使っていた林業公社は各地で県有林等に引きとられたケースも多い。

このようにして、私有林、公有林、国有林含めて拡大造林は成功したといえる。ここで、現在の再造林を進めるにあたっては、やっぱり、金と意欲と労働力である。

山の木を高く売って金にするには、A～D材総て売り、流通経費を下げて、山元の手取りを増やすこと、造林経費を木材利用する人たちで助成する造林基金事業を拡大すること。

意欲を高めるには、脱炭素社会に貢献すること、優遇税制措置を講じて、何らかのパスポートをゲットすること。

労働力確保には、全国植樹祭、全国育樹祭の開催地イベントだけではなく、全国で、毎年１カ月間を国民総参加の造林・育林ボランティア月間として、１０００ha単位で取り組むこと。

何か、夢みたいな話のように聞こえるが、「できないことはない!!」と確信している私である。

最後は、企業が脱炭素社会に取組む時代である。「公益法人企業の再造林公社」設立はどうかなぁ？拡大造林が、いかにして成功したかの検証は大事なことだと考えるこの頃である。

令和４年６月分の販売実績

樹　種	合板・ＬＶＬ用			製材・集成材・その他用			計		
	当月出荷量(㎥)	前月比(%)	前年同月比(%)	当月出荷量(㎥)	前月比(%)	前年同月比(%)	当月出荷量(㎥)	前月比(%)	前年同月比(%)
ス　ギ	15,859	109.6	128.2	9,589	110.6	85.4	25,448	110.0	107.8
カラマツ	3,499	99.3	182.4	3,922	114.9	168.2	7,421	107.0	174.6
アカマツ	1,910	82.0	62.4	233	59.3	98.7	2,142	78.7	65.0
その他	7	＊	＊	305	93.0	114.0	312	95.1	116.7
合　計	21,275	104.7	122.6	14,048	109.7	99.9	35,323	106.6	112.5

樹　種	燃　料　用		
	当月出荷量(ｔ)	前月比(%)	前年同月比(%)
ス　ギ	5,069	164.5	133.8
カラマツ	2,478	81.2	90.2
アカマツ	1,214	41.0	97.5
その他	59	71.5	44.0
合　計	8,820	96.1	111.5

注)＊印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

樹　種	今年度累計			
	合板・ＬＶＬ用(㎥)	製材・集成材・その他用(㎥)	計(㎥)	燃料用(ｔ)
ス　ギ	46,610	28,357	74,967	11,408
カラマツ	10,150	9,327	19,476	8,164
アカマツ	8,150	752	8,902	6,757
その他	7	912	919	211
合　計	64,917	39,347	104,264	26,541
目標達成率(%)	27.0	22.5	25.1	19.7
計画量	240,000	175,000	415,000	135,000

【令和４年６月の需給動向】

●スギは各工場、過剰在庫の状況が続き、受入制限が更に強まる傾向にある。
●カラマツは高値の状況もあり納入が増加、在庫も確保されているが、まだ納入可能。
●アカマツは青変菌が発生する時期となるため、過剰在庫にならないように制限実施。

耳からウロコ

林業退職者共済組合の仲間
―何故、建退共・清退共と同じグループなのか？―

通称林退共と言われて、独自の退職者共済組合があるが、昭和57年につくられた組織は、建設業、清酒製造業、林業退職者共済組合である。何故、この組合せなのか？当時、年間雇用でなく、定期的な期間をくり返し雇用するスタイルがあったのがこの３業種であった。林業も夏場は農業で、伐採適期の冬場は林業といった兼業であったし、雇用労働者として日給、日給月給として収入を得ていたといえる。

しかし、清酒製造業も同じなの？と疑問がわく。日本酒の製造は寒づくりで、冬場の季節労働であるとともに、毎年くり返し雇用されていたため、林業と同じグループとなったのである。とりわけ、酒の仕込みは、杜氏と呼ばれ丹波杜氏・越後杜氏・南部杜氏等特定のエリアの集落に集中していたといわれる。もちろん、この人達の技量が清酒の出来不出来を左右したのである。この頃、清酒製造業者が大山持ちだったこともあり、酒蔵に伺う機会があったが、仕込み現場に入れるのは杜氏さんだけで、社長であろうと出入り禁止であると…。その人についている菌が混じらないようにと言われたのである。常識的に納豆も厳禁と聞いた。逆に、新しい酒蔵を作る時は、古い酒蔵にあった木を使い、木に付着している菌が大切だとも言っていた。林業も清酒製造業も特別な技術者が担っていたのである。

ちなみに、杜氏の「杜」は、土から木が育った森の意味であり、森林をつくる林業とは漢字上からも共通である。建設業も木を使った木造建築と土木工事で、こちらも木に関連している。

建設業、清酒製造業、林業退職者共済組合とは、正に森林、林業、木材産業に関わる組合せである。林業で稼いで、木造住宅で日本酒を飲むが、今回のテーマである。